

第30回「大阪の消防大賞」受賞者

消防職員の部

所属	受賞者	功績概要
吹田市 消防本部	指令情報室 指令情報第1課 調査第1グループ (4人)	<p>平成26年5月15日、9時00分覚知の吹田市豊津町で発生した火災事案に際し、火災現場に最先着し出火建物の状況を確認した結果、出火建物内に逃げ遅れた要救助者1名を発見し、的確な状況判断と適切な救助活動で要救助者を救出した事案。</p> <p>現場対応用の装備が完全ではなく、フラッシュオーバーが迫る状況で職員に負傷もなく、一致協力して救助活動が成功したのは、職員の冷静な状況判断と消防人としての使命感のなせる所で、他の職員の模範にとどまることなく、市民の負託にこたえる信頼される消防像そのものであり、その功績は絶大である。</p>
枚方寝屋川 消防組合 消防本部	警防部情報指令課 北村 信人	<p>平成26年11月11日(火)23時49分、女性から固定119番の通報を受信し、不整脈の既往歴及び呼吸をしていないとの聴取内容から、胸骨圧迫等の口頭指導を指示しながら、PA連携による出動指令を送出する。</p> <p>出動指令送後も、傷病者の容態の情報を聴取し、死戦期呼吸等の的確な判断のもと、継続して胸骨圧迫を行うように指示する。その結果、通報から19分後に心拍が再開したことが確認され、病院搬送に至ったものである。</p>
豊中市 消防局	北消防署 中島 慶太	<p>平成26年12月14日午後、吹田市内のスポーツ大会に出場していた男性(42)が、競技中に倒れ込んだ。大会に参加していた中島消防士長は、直ちに駆けつけて参加者の1人に気道確保や心臓マッサージを指示し、自らは体育館からAEDを運んできて作動させた。近くにいた参加者数人と協力して人工呼吸などを実施した結果、心肺が蘇生し意識も回復。男性は後遺症もなく社会復帰した。</p>
大阪市 消防局	東淀川消防署 (8人)	<p>大阪市消防局では、指輪が抜けなくなった市民に対してリングカットを年間300件ほど実施。それまでの装備では切れない硬い材質の指輪が増えてきたため、ダイヤモンドに着目し、市販のトリミング用カッターの刃をもとに試作品を製作した。今後、より精度が高い製品ができれば、短時間で市民を痛みから解放することができ、従来品よりも価格を抑えられと期待される。</p>
大阪府下消防音楽隊推進部会		<p>同部会は昭和50年に結成された大阪府下消防音楽隊業務研究会を前身とし、現在は9つの消防音楽隊で構成。「大阪の消防大賞」には第1回から参加し、大阪府下消防音楽隊として合同演奏を実施。府消防操法訓練大会などで演奏を行い、消防の広報活動の一翼を担っている。</p>

消防団員の部

所 属	受 賞 者	功 績 概 要
茨木市消防団	534人	<p>茨木市消防団が管轄する茨木市には29団体28小学校区に自主防災組織が結成されており茨木市消防団の山田団長以下53人の団員が市内を12分団に分かれて受け持ち、それぞれの自主防災訓練に積極的に参加している。</p> <p>また、このことは消防団と地域住民が一体となり災害時における地域防災力の向上に大きく貢献している。</p>
豊能町消防団	61人	<p>平成26年8月10日、台風11号の接近に伴い北大阪全域に大雨・洪水・暴風警報が発令され、豊能町消防団の各分団は待機中であったが、同日正午過ぎより、管内各地で災害が続発した。東浦団長の統括指揮の下、各分団はおのおのの管轄地域で疲労感と戦いながら、応急対策や避難誘導を実施し、二次災害の防止や被害の軽減に努めたものである。</p>
堺市美原消防団	前団長 氏林 弘	<p>半世紀以上の期間、消防団活動に精力的に従事し、住民の安心安全を第一に考え、行政に対し「消防水利・消防団拠点・消防団資器材」の充実を長年訴え続け、消防団の充実強化に尽力した。</p> <p>堺市と美原町の市町合併においても郷土愛護の精神に基づいた消防団組織は、旧美原町区域においてなくてはならないものであると、その必要性について関係部局に対し強く訴え、全面的に理解を得ることに成功、旧美原町地域を活動区域とする消防団として存続することとなった。また、地域防災力の向上について、地震災害等の大規模災害発生時において、市民の安全を確保するためには、地域住民で組織する自主防災組織と消防団の連携が必要と考え、消防団が積極的に訓練指導に参加、現在も地域の防災リーダーの育成に熱意を注いだ。</p>